

練馬区の将来像を考える区民懇談会
区民生活分野分科会
第3回 議事概要

日時：平成19年10月23日（火）18:30～20:30

場所：練馬区役所東庁舎6階 603会議室

出席者【50音順】

内田欽三郎、奥村隆史、尾崎九一、川端法子、木原勇、後藤勇、坂口節子、清水幸子、戸田一誠、西塚正美、堀山みどり、平野一枝、本山裕一、若井治子

1. 討議

（1）討議の進め方について

－コーディネーターの田中氏、事務局（コンサルタント）から、第2回懇談会のグループ討議結果、将来像に係る重点テーマ整理案、本日の議論の進め方について説明がなされた。

（2）グループ討議①重点テーマの確認

－3グループに分かれ、第2回懇談会の討議結果にもとづく将来像に係る重点テーマ整理案について自由討議を行った。
－各グループの討議結果をそれぞれの代表者が発表した。

【各グループ参加者（50音順）】

*第一グループ：本山裕一、平野一枝、清水幸子、坂口節子、西塚正美

*第二グループ：川端法子、内田欽三郎、戸田一誠、後藤勇

*第三グループ：若井治子、奥村隆史、堀山みどり、尾崎九一、木原勇

【討議結果要旨】 詳細は別紙（「第3回区民生活分野分科会 グループ討議①重点テーマについて 討議結果」）参照

■第一グループ：

- ・若者の意見が少ない。
- ・建物の周りに緑があるのではなく、緑の周りに建物があるというまちにできないか。建物を造る際にこうした緑化に取り組むような緑の条例化ができないか。
- ・大きい木と小さい木の棲み分けや、植樹で街灯を遮ってしまうことの無いようするなど、植樹にも工夫をしてほしい。

- ・防災強化のため、地域の連帯を強めることや防災備蓄を拡充することが必要である。

■第二グループ：

- ・当グループは重点テーマの中身を議論した。
- ・安らぎが一つ目の論点と二つ目の論点で重複している。
- ・「絆とやすらぎの町」は、その内容をコミュニティと安全に絞った方が良いのではないか。
- ・基本的、一般的な事は練馬区のこれまでの基本計画に大なり小なり取り上げられていると考えられる。このため、我々はポイントを絞り込んで、画期的なことを提案することが重要ではないか。
- ・区と区民の認識はそれほどずれていないように思われるが、議会と区民の認識にはギャップがあるように思われる。いろいろな意味で区議会のレベルを上げることが、区と区民の風通しを良くするために必要ではないか。

■第三グループ：

- ・農業や緑に関する意見が多く出された。
- ・練馬の原風景を再現すべきであり、そのためには農業がきちんと成り立つ必要がある。景観は飾りではなく生活に根ざしたものでなければならない。そのために練馬の農業をなくさないためにどうすれば良いかを考える必要がある。
- ・まちづくりは基本構想を頂点とし、地域を底辺とするピラミッドであるが、この構造の中で、基本構想については特に、縦割りではなく横割りでまちづくりを考える必要がある。

(2) グループ討議②重点テーマに係る課題の抽出

- －3つの重点テーマごとに3グループに分かれ、重点テーマに係る課題の抽出に関して自由討議を行った。
- －各グループの討議結果をそれぞれの代表者が発表した。

【各グループ参加者（50音順）】

* Aグループ（絆とやすらぎの町）：

内田欽三郎、川端法子、後藤勇、清水幸子、西塚正美

* Bグループ（誰もが生き生き暮らせる元気なまち）：

奥村隆史、木原勇、坂口節子、若井治子

* Cグループ（農緑のある町）：

尾崎九一、戸田一誠、平野一枝、堀山みどり、本山裕一

【討議結果要旨】詳細は別紙（「第3回区民生活分野分科会 グループ討議②重点テーマに係る課題の抽出 討議結果」）参照

■ Aグループ：絆とやすらぎの町

*コミュニティについて

- ・コミュニティづくりに向けて、いろいろな人と交流できる施設や催し物、組織などが必要である。区民館などの既存の施設、既存の組織には様々な課題があり不十分である。
- ・交流の基礎として、良好な人間関係が構築できるように町内会のあり方を見直す必要がある。
- ・交流の場となるように商店街のあり方を見直すべきである。

*防犯について

- ・地震など大規模災害時の緊急物資の備蓄を充実する必要がある。
- ・犯罪に対する対策が不十分である。町内会のあり方を見直す中で、こうした点にも対応する必要がある。

■ Bグループ：誰もが生き生き暮らせる元気なまち

- ・練馬区の都市経営をどうすべきかを検討する必要がある。
- ・70万人はコミュニティの規模としては大きすぎ、その観点では3つぐらいに分割すべきであるという意見もある一方、他区と合併した方が良い都市になるという意見もある。
- ・海の街山の街など離れた都市と姉妹都市となってふるさとづくりをすることも良い。
- ・「めぐり歩いて楽しい町」を目指すイメージとすると良い。
- ・練馬はベッドタウンであるため、家にこもりがちな住民を町に引っ張り出すため、公園や商店街を人が集まれる場所にすべきである。
- ・練馬には様々な人材がいるので、住民一人ひとりの力をもっと出し切れるまちにすることが重要である。

■ Cグループ：農緑（のうりよく）のある町

- ・みどりを楽しむだけでなく、みどりを生み出す取組が重要である。
- ・みどりと関連して、小規模農業が成り立つようにする必要がある。緑地としての農地を将来にわたって守るためには、民間の努力では限界があり、税制面なども含めて農業を守る取組みが必要である。
- ・景観の面では、まち全体の修景に関する視点が重要である。
- ・この論点のうち「楽しく安らげるまち」については、他の論点に包含可能と考え、「暮らしにみどりがあふれるまち」に絞って議論した。
- ・縮小しても良いので、3つの論点を一枚に記載して相互の関連についても検討できるようにしてほしい。

2. その他

一前回以降の討議の進め方についてコーディネーターより説明がなされた。

○田中コーディネーター

- ・次回からは、各グループから提示された問題意識を掘り下げて、何が問題で、どうしたらそれが解決できるのか、課題の解決策を明確にしていくこととしたい。

(以上)